

平成28年度 法科大学院入学者選抜試験問題

憲 法 ・ 刑 法

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
2. 試験時間は、憲法、刑法の2科目で120分です。
3. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明や解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答にあたっては、必ず黒か青のペンまたはボールペン(鉛筆は不可)を使用してください。
5. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
  - (1) 受験番号・氏名を所定欄に記入してください。
  - (2) 解答用紙は、憲法2枚、刑法2枚です。2枚目の解答用紙にも受験番号・氏名を記入し、ホチキスは、はずさないで使用してください。
  - (3) 訂正する場合は、＝線で消すなどして、分かりやすく訂正してください。
  - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
6. 問題用紙の余白等は適宜利用してかまいません。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

## 【憲 法】

Y県立高校は創立90年になる男子だけの伝統校であり、「文武両道」を旨とする県内でも有数の進学校である。すべての教員はいずれかのクラブの顧問となり、とくに武道を重んじ、剣道や柔道は国体でも県を代表してきている。しかし、近年、学力が落ちてきているという傾向があり、対策をたてなければこのまま進学校の名を他の私立の高校に奪われてしまうという危機感が教員の間でもでてきた。そこで教育委員会が指導して、教員と保護者の間での協議の場を設け、その結果伝統の朝の練習を禁止し、代わりに自主学習の時間とすること、放課後の練習も17時までとし、例外は認めないことを、校則に明記することにした。この規則に違反すると、最悪の場合には廃部もありうるようになった。これに対して、学生の側から異論がでてきた。一番の理由は生徒会の意向を一切無視したことであり、さらに、季節を問わずに17時では十分な練習時間がとれなくなることである。とりあえず、生徒会は臨時総会を開催し、反対の意思を教育委員会と校長に伝えることにした。

## 【設 問】

相談を受けたY校出身の弁護士は、どのような憲法上の権利を根拠にした訴え方を学生にアドバイスすればよいでしょうか（80点）。

## 【刑 法】

以下の文章を読んで、問いに答えよ。

X女（20才、身長170センチメートル、体重55キログラム）は、ブランド物のショルダーバッグをもって大学の図書館で刑法の勉強をしていたが、そろそろ帰ろうと、刑法の本をバッグにしまい、トイレに行くため財布だけを取り出して、バッグを置いたまま席を立った。約2分後に元の席に戻ったが、置いてあったバッグが無くなっていたので、Xは慌てて図書館の外に出て周囲を見回したところ、10メートルほど先に、自分のバッグと似たバッグを持って歩いていたA女（19才、身長155センチメートル、体重48キログラム）を見つけた。Xは、Aが図書館と逆の方向を歩いていたので、Aが犯人ではと思い、後ろから駆け寄ってショルダーバッグを見たところ、自分のものと全く同じ種類のバッグであり、バッグの隙間から自分と同じ刑法の本が見えた。そこで、Xは、Aが自分のバッグを盗ったものと判断し、Aに対し、「それは私のバッグでしょ。図書館の席に置いてあったのを盗ったわね。」と詰め寄ったが、Aは「知らない。」と言った。そこで、Xは、「とぼけないで！」とバッグを力いっぱい引っ張ったところ、Aがバッグから手を放したため、バッグを持って立ち去った。Aはバッグを取られた拍子に転倒し、コンクリートに頭を打ち付け、加療二週間を要する怪我を負った。しかし、実際には、Xのバッグを盗んだのは全くの別人Bであり、Xが犯人をAと判断したのは、Xの勘違いであった。

Xの罪責について、具体的事実を摘示しつつ論ぜよ。